

防衛大学校長 着任の辞

4月1日付をもって、小泉進次郎防衛大臣より、防衛大学校長を拝命した吉田圭秀です。どうぞよろしく申し上げます。

私自身、自衛官退官後には教育者の道に進みたいという、かねてからの念願が叶い感無量の思いです。

その一方で、この「動乱の時代」ともいえる世界史的な難局に、この国の行く末を託す若者達を送り出して行く責任の重さも痛感しています。私が自衛官として過ごしてきた40年間よりも、学生諸君がこれから迎える40年間の方が間違いなく遙かに厳しい時代となることでしょう。

着任に当たり、今後、我々の追求すべき目標として、「自主自律に基づく、自由で開かれた防衛大学校」を掲げます。お気づきの人も多いと思いますが、この目標は、「法の支配に基づく、自由で開かれた国際秩序」という国際政治上の理念を防衛大学校の目標に置き換えたものです。

第一に、「自主自律」については、将来自衛隊のリーダーとなる諸君には、自ら律することにより、他の社会よりも一層厳しい規律の維持が求められます。諸君が将来、難局に立ち向かう際、最大の武器となるのが「主体性」と「自律性」の発揮です。それ故、学生時代に「自主自律」を体現することが将来のリーダーとしての重要な素地になります。

第二に、「自由」については、歴代の学校長が仰っている通り、決して「放縦」を意味するものではなく、規律なくして真の自由はありません。私が強調する「自由」とは、榎智雄初代学校長が追求した「リベラル・アーツ」としての学問の自由です。皆さんは、就学間、将来のリーダーとしての判断力の基礎となる深い「教養」を身につけなければなりません。

第三に、「開かれた」については、小原台が、単に居心地のよい同質的で共同体的な「閉鎖空間」であっては、将来のリーダーシップの素地は十分に育

ちません。これからの難局の時代に我が国の防衛を担うリーダーには、多様性と他の組織との関係性を構築する力が求められます。それ故、日本社会や国際社会の同世代の若者達との「他流試合」の機会を積極的に求めていきましょう。

この「自主自律に基づく、自由で開かれた防衛大学校」の目標を体現するにあたり、私のリーダーシップ・スタイルとして、防衛大学校の教職員及び学生一人一人との「対話」を重視していきます。どうか私に相對する時は、本音ベースで自分の考えや思いを伝えてください。私自身も真剣に皆さん一人一人と向き合っていきます。

今後、国際社会の荒波に立ち向かい、新たな時代を切り拓いていくリーダーシップの素地を涵養する防衛大学校の価値は、我が国においても、国際社会においても、著しく高まっていくと確信しています。正に輝く「防大ブランド」です。

諸先輩の築き上げた七十有余年の防衛大学校の輝かしい伝統の上に、今、ここに集った我々の世代が、「チーム小原台」として一丸となり、将来の我が国発展の礎となる新たな防衛大学校の歴史の一ページを共に作って参りましょう。

令和8年4月2日

第11代防衛大学校長 吉田 圭秀